

祝 辞

学校法人昌平覺

理事長 田久昌次郎

東日本国際大学・いわき短期大学の平成 23 年度入学式が 1 ヶ月遅れとなり、しかも栄えある門出を心の底から素直に喜べない状況にあるため、ささやかな式典となりましたことにお詫びを申し上げますとともに、ご理解を賜りたいと存じます。

この度の大震災では、福島県内の亡くなられた方・行方不明の方々は 2756 名を数え、避難を余儀なくされた方は 8 万 4 千名を超えています (4/22 現在)。いわき市内においても多くの尊い生命が失われました。被災された方々に衷心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

私たちは歴史上途轍もない大災害に見舞われ、日本中が悲しみや苦難、何も出来ないもどかしさに静かに耐えています。そして、多くの人々が肅々と支援物資やガソリンを受け取る光景を目の当たりにして、私は同じ東北人、いや日本人としてその姿を誇りに思います。これは単に地震や台風などの自然災害が多い国柄だからではありません。日本人の DNA に孔子の教えが根付いているからに他なりません。

その孔子は立身出世した成功者ではなく、流浪の旅の途中で弟子の一人に「君子も亦窮すること有るか」と食ってかかれます。その時、孔子は「君子、固より窮す」と答えたのちに「小人は窮すればすなわち濫る」と論じています。日本人は、孔子が理想とする君子の姿をこの大震災で自然に濫れることなく実践したのです。今度は政治が国民の振る舞いに応えなければなりません。そして、孔子の教え『儒学』が本覺建学の精神であり、孔子や弟子たちの言葉をまとめたのが『論語』です。

新入生の皆さんには、日本人の血肉とも言える孔子の教えに誇りを持ち、その教えを深く学ぶとともに人生の折に触れて『論語』の真髓を実践できる人々になって頂きたいと願っています。この大震災は日本の危機、人生最大の悲劇、被害の途方もなさにつむいてしまう人も多いかも知れません。新入生のひとり一人が、いま何が出来るかを真剣に考え実行し、その澁刺とした行動が打ちひしがれた人々の糧となると信じます。「ひるむなニッポン！」と。そして、2年後、4年後の学位記授与式では、雄々しく成長した皆さんの姿を期待しています。

次に皆さんも少なからず心配している放射線について触れます。現在、学内の積算放射線量を測定中で、コンクリート室内の測定値は 1 週間当たり $10\mu\text{Sv}$ を記録しました (4/13~4/20)。60 分換算で約 0.06、24 時間では 1.44、1 年で 526.5 (単位は μSv) に相当します。この値がどの様な意味を持っているかは皆さんで調べて欲しいと思いますが、国が公表しているいわき市内の数値と大きくかけ離れたものではなく、それらの数値が継続・減少すれば安全であると確信しています。放射線はその利用状況・線源により幾つかの 카테고リーに分類され、その一つに自然放射線があります。例えば空から降りそそぐ宇宙線、食物や空気から体内に入り込む放射線 (内部被爆となり、特殊な装置を用いないと正確には測れません)、花崗岩地帯で多いとされるラドン由来の放射線などが含まれますが、この自然放射線量は地域によって異なり、1 年間の世界平均は $2500\mu\text{Sv}$ 、日本の平均は $1500\mu\text{Sv}$ とされています。一方で、この値にレントゲンなど医療用の放射線量は含まれず、無論原発事故も考慮されてはいません。室内という条件付きではあるが、学内の放射線は自然放射線 (日本: $1500\mu\text{Sv}$) の約三分の一の少ない線量であると強調しておきたい。

結びに、まだまだ憂慮すべき状況は続いています。学生諸君には、見えない放射線をむやみに恐れることなく、正しく学び理解すること・自分を守ること・互いに助け合う気構えが求められます。そして、教職員一同、皆さんの大学生活をサポートするとともに、安心して勉学できる環境を守り続けることをお約束し祝辞といたします。